



ご挨拶

新型コロナウイルスの影響で、日中活動系の4事業所を約1か月半「休業」(1事業は連休明けに再開)していましたが、緊急事態宣言が解除されたことで6月から再開しました。まだ以前の通りとはいきませんが、感染に注意して対策を講じながら、運営しています。これからはイベントが再開されること、内職や弁当の注文が以前の状態に戻ることを願っています。自粛の間に、柏市逆井地区に1Kのグループホーム増設の準備を整えました。見学希望の方は、法人の事務局(上記)か、沼南荘(04-7193-5032)までお問い合わせください。逆井駅まで5分以内で、スーパーにも近く、5人の方がそれぞれに一人暮らしが出来るタイプです。8月にはオープンします。

☆就労継続支援B型「青い鳥」

障害者の方の就労の場である「青い鳥」では、①お菓子の製造をしている「はびねす」と、②内職仕事を中心とした「ことり」と、③流山市の初石公民館での調理と接客業務の「キッチンよつば」と、④柏市保健センター内での「軽食喫茶かるのこショップ」などの、幅広い業務内容で、働くことを希望される利用者の方のニーズに合わせて、就労支援をしています。

はびねすでの作業内容は、生地作り、計量・分割、焼き上げ、袋詰め作業があり、コミュニケーションを図りながら、集中力や持続力を身に着ける訓練として、主に焼き菓子・クッキーの製造販売をしています。

ことりでも、規則的な生活の中で、集中力や持続力を身につけながら、手作りの小物や押し花のオリジナル製品を作ったり、また外注も受けて電話機のクリーニングや検査キットの袋詰めなどの仕事も請け負っています。あきが来ないように、仕事に変化をつけています。

かるのこショップとキッチンよつばは、食事と飲み物を提供する仕事ですので、人間関係の訓練の場にもなっています。接客と調理、商品の販売も行っていて、一人一人にいろんな仕事を覚えてもらい、接客業務を通じて、苦手なコミュニケーションの練習の時にもなります。特に、キッチンよつばの日替わり定食は、数量限定で毎日異なるメニューを提供しており、皆さんに喜んでいただいています。

このほかにも青い鳥では、掃除の業務を請け負っていたり、売店やイベント場での販売などの、施設外就労も行っています。これからも、利用者の方たちの「笑顔」のために、職員もがんばっ

ていきたいと願っています。焼き菓子の販売はいつでも注文に応じられます。

「青い鳥」には、**現在定員の空きがあります**。見学や体験利用などの問い合わせは、04-7199-8119までお願いします。



☆体験談・柏市在住インタビュー Eさん

① 「休業中」に、どう過ごしたか

青い鳥に通所するようになって、約10年になります。今では、調理とクッキーづくりを担当しています。まだ体調が十分とは言えず、持続することが苦手ですので、週3日電車とバスを利用して、通所しています。作業中疲れたときは、休憩させてもらいます。

今回のコロナの感染予防で、作業所が3週間ほど休みにになりました。最初は暇で、ごろごろ休んでいましたが、思い直して散歩をすることにしました。同じところを歩くと飽きるので、コースを変えて歩きました。2時間ほど歩いたこともあります。不安になったり、眠れなくなることはありませんでしたが、再開されてほっとしています。

② 今のB型事業所「青い鳥」に出会うまで

青い鳥に通うようになった同じ時期に、グループホームに入居しました。それまでは流山市に母と一緒に暮らしていました。最初の病院からいくつか転院しましたが、今は流山おおたかの森のクリニックに通院しています。先生を信頼していますので、安定して通院できています。入院期間は、全部合わせると3年ほどでした。統合失調症と言われていますが、私の場合は幻聴ではなく、盗聴されているとか、テレビで自分の考えを見透かされているといった感じでした。このため、恐怖心があり、不安で騒いだ時期がありました。

こそのため、緊急入院になりましたので、その時から長く付き合う人がいました。ただ、こだわりの強治治療が始まりました。

③ 自分の病気に気づいたきっかけ

発症したのは30歳のころだと思います。急に具合が悪く依存があると聞かされた時は、驚きと戸惑い合いが悪くなったので、無理矢理の入院となりました。両親が一人ずつ亡くなって、家族は自分一人。自分でも訳が分かりませんでした。少しずつ落人になった時、今度は私とのトラブルが増えてき落ち着くことが出来て退院しました。退院後は、自宅暮らし。病院や柏市に相談し、一人暮らしとなつ分の家に引きこもりがちになってしまいました。先のていた兄をグループホームにお願いすることがの見通しのつかないなかで過ごしていましたが、柏市出来ました。

④ 過去の楽しみ、今の楽しみ

私は若い高校生の頃、自転車に乗ることが大好きでした。ツールドフランスに出場することを夢見て、一日200kmも走ったことがありました。自転車に乗るのを止めることになったのは、自転車の姿勢で首の骨を痛めたり、転んで指を怪我しててくれたお金をあてにしていたようです。このため、グループホームに管理をお願いしました。兄は職員の言うことには従順でした。その後は穏やかな生活が続きましたが、肝臓の悪化で入院し、急死しました。私にとって予想外のことでした。

今現在趣味と言えることはありませんが、私は犬が好きで、散歩のときなどに犬に出会うと、飼い主の方に頼んで、触らせてもらいます。犬も犬好きな人は分かるので、喜んでくれます。家族で暮らしていた時は、犬を飼ってました。犬に触っていると心が和みます。



☆家族の想い・柏市のEさん（インタビュー）

① 病院の家族会との出会いは・・・

私の兄が発病したのは、30代半ばです。しかし、それより数年前から職場でのトラブルや、両親との仲たがいがあって、「何か変だ」とは感じていました。私は就職したときに家を出ましたので、兄の具合が悪くなった時は、詳しいことまでは知りませんでした。仕事のストレスもあって、酒を飲む回数も量も増えたようです。両親ともめたときに暴力ざたになったため、警察に連絡して、強制的に精神科病院に入院となりました。その時にはアルコール依存にもなっていました。両親だけでは手に負えなくなり、やむを得ず私も関わるようになりました。通院した病院には「家族会」の学習会があり、年老いた両親に代わり私が参加するようになりました。そこで精神病やアルコール依存のことを知りました。

② 兄が発病したあとの戸惑いと心配

私と兄は二人だけの兄弟です。兄とは特にもめることもなく、普通の兄弟でした。兄は機械いじりが好きで、仕事は電気関係の仕事につきました。あまり人間関係は得意ではありませんでしたが、数人とは

さはあり、頑固でした。両親から兄のことを聞いてていましたが、さすがに統合失調症とアルコール

③ いくら兄弟でも面倒は見切れない

両親は、兄とは出来るだけめめないように接していたようです。しかし私は両親のように我慢強く接することは出来ません。特にお金のことはめめました。金銭管理が出来ずに衝動買いをし、足りなくなると私に要求していました。両親が残し

④ 今振り返って思うこと

兄が亡くなって間もなく3年目になりますが、兄弟が障害者の面倒を見ることは大変です。親のようにはできません。自分の家庭がありますし、兄弟のつながりは、親子の繋がりほど強くはありません。それでも私だけが家族でしたので、何とか周りの方の支えを得て、頑張れました。兄が生きていた時は揉めることもありましたが、今は懐かしく思い出せます。

☆精神障害者家族会よつば会 定例会の紹介 (問い合わせ 04-7199-3645)

<柏部会>

- ・7月25日土曜 12時45分から
- ・パレット柏 ミーティングルームA

<我孫子部会>

- ・7月20日月曜 午後1時から
- ・湖北駅南口の「お休み処」にて

<流山部会>

- ・7月31日金曜 10時から
- ・初石公民館・会義室にて

